

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	4企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	おーらじえい オーラJ	団体ウェブサイトURL	www.ora-j.com
代表者職・氏名	代表・坂田誠山		
制作団体所在地	〒 151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-29-5 五味楽器ビル1F	最寄り駅(バス停)	京王線・笹塚駅
電話番号	050-5858-9016		
ふりがな 公演団体名	おーらじえい オーラJ	団体ウェブサイトURL	www.ora-j.com
代表者職・氏名	代表・坂田誠山		
公演団体所在地	〒 151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-29-5 五味楽器ビル1F	最寄り駅(バス停)	京王線・笹塚駅
制作団体 設立年月	1998年9月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	代表:坂田誠山 運営幹事:佐藤容子(音楽部門)、門脇央知(事業部門) 監事:森博明	日本音楽及びアジア音楽に関わる、演奏者、作曲家、評論家、企画者等の実演者及び制作者。これらの実績を有する、又は志す個人・団体。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	門脇央知
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	坂田誠山
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	kadowaki@ora-j.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>1993年に日中韓三国の代表的民族楽団が提携して、東北アジアの民族楽団「オーケストラ アジア」が企画され、その後98年に「オーケストラ アジア・ジャパニアンサンブル」として日本楽器を主とする活動を開始。2000年からは、「オーケストラ アジア」から独立し、名称を『オーラJ(AURA-J)』と改め、毎回明確なテーマを持った自主定期公演を実施する演奏団体として活動している。</p> <p>現在までに38回の自主公演を行い、新しいアプローチによる日本音楽の作品を創作、上演。北杜国際音楽祭では全国現代邦楽合奏団コンベンションのホスト団体を務め、全国のアマチュア邦楽演奏家への講習などを行った。他に、全国で学校公演を多数実施し、国立劇場主催公演、作曲コンクール、地方自治体主催公演など多数の受託公演へも参加。一方で、ハワイ大学、テキサスTAM大学など多数の海外機関より招聘され公演や講習会などを実施し、海外からの実演家留学生の受け入れも行っている。また、近年では在外日本大使館が現地で上映する動画などにも参加している。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>徳島、長野、茨城、鳥取・島根・山口・広島・岡山・三重・和歌山・大阪・千葉・東京など各地にて多数実施。小中学校以外にも、高校、大学、海外の学校における公演実績もあり。</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>文化庁事業での多数の公演以外では、徳島県立ひのみね養護学校での公演がある。その他に、聴覚障害学級、特別支援学級での実施実績もあり。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://officekadowaki-my.sharepoint.com/:f/g/personal/ochi_officekadowaki_onmicrosoft_com/EhXyb8TMZ-dNng6mZAHAVH8BiboXVBd3qLcdkAVqQf_Cg?e=6lchI6</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>	<p>jjunkai2024</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名

オーラ

】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	日本の楽器 管・絃・打			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>・日本の管・絃・打楽器の面白さを知ってみよう(約40分) 日本古来の様々な伝統楽器を紹介します。箏、十七絃箏(低音箏)、琵琶、三味線、篠笛、尺八、小鼓、太鼓を中心に、伝統的な奏法や、聞き所などを奏者が解説しながら実際の演奏を交えて紹介します。</p> <p>・管・絃・打楽器で合奏 『ダンス・コンセルタント第1番「四季」』三木稔作曲(約20分) 前半では様々な楽器を紹介してきましたが、これらの楽器全部による合奏曲を聞いてみます。</p> <p>・日本の管・絃・打楽器と一緒に歌ってみよう!(子どもたちとの共演プログラム)(約10分) 校歌を邦楽器アンサンブル用に編曲しますので、子どもたちの歌と邦楽器群とで合奏します。</p> <p>・いろいろな楽器どれが好き?(約10分) 子どもたちとのトークセッション。どの楽器がいちばん気に入ったかを話してもらいます。 別添あり</p> <p style="text-align: right;">公演時間 80 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし		該当コンテンツ名
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	このプログラムは、箏・三味線・尺八・笛・琵琶・小鼓・太鼓などの、日本の伝統的な楽器を使用したコンサートです。いろいろな種類の日本の伝統楽器を鑑賞することができます。			
演目選択理由	邦楽は日本の伝統的な芸能である一方で、海外でも人気を博すような普遍的芸術性を持った音楽です。この演目では邦楽器の古典的な形態や音子どもたちへ紹介する一方で、日本の楽器が持っている幅広い音楽性を感じてもらえるように制作しました。多様な日本の楽器が登場し、多くの伝統楽器を一度に間近で鑑賞することも魅力です。一つ一つの楽器をじっくり聞き、各楽器への興味を誘うようになっていますが、合奏による創造的な音楽芸術性にも触れられるように構成してあります。子供たちの芸術的感性を触発するとともに、日本音楽への関心の糸口となるであろうと考え演目を選択しました。			
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	邦楽器楽団用に校歌を編曲しますので、邦楽器による伴奏と、子どもたちの歌で合奏をします。邦楽器楽団の伴奏で合奏する機会は殆ど無いと思いますし、邦楽器で校歌を演奏することができると思っいる子どもも多くないかもしれません。通常あまり耳にすることのない楽器で、最も身近な音楽を演奏した場合、同じ様に聞こえるのか、全く違って聞こえるのか、一緒に歌うことは簡単か難しいか、どこがピアノ伴奏と違うのか。数々の相違点を考えながら歌えるように、事前に解説・指導いたします。			
出演者	指揮:榊原徹、福島康晴 笛・尺八:阿部大輔、坂田誠山、関一郎、高橋慧山、本間豊堂 箏:木村玲子、桑子裕子、小林道恵、重成礼子、篠塚綾、藤川いずみ、本橋麻由美、松村エリナ 三味線:大友美由奈、野澤徹也 琵琶:大上茜、櫻井亜木子 打楽器:片岡宏晶、篠田浩美、望月太喜之丞、若月宣宏 他			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 11 名	運搬	積載量: 2 t	
	スタッフ: 4 名		車長: 5 m	
	合計: 15 名		台数: 2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	09:00-12:00	13:00-14:30	10分	14:30-15:30	15時30分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	15日	10日	20日	20日	
	11月	12月	1月	計	135日	
	20日	15日	15日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	1000
		鑑賞人数目安	1000

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

※この写真は本演目と似ている編成の演目によるビジュアルイメージです。
当演目ではこの写真より数人少なくなり、使用する床面積は幅8m×奥行き4m程度です。
会場に応じて縦幅・横幅の設定を調整いたしますので、小サイズを含め、殆どの体育館で
上演可能です。また必要な備品も、普通の電源コンセント、パイプ椅子、長机など一般的な
ものです。

【公演団体名 オーラJ 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1000
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>・本公演時の鑑賞解説(約15分) 本公演の鑑賞のポイントや、日本伝統楽器の種類・名称・特徴などについて、資料を見せたり、実際に演奏をしながら解説します。なかでも、邦楽器ならではの演奏方法を紹介して、普段聞き慣れている西洋楽器との違いを感じてもらい、なぜ西洋楽器と邦楽器ではそのような違いが出てくるのかを考えて、日本の楽器の特徴を知り、本公演時の鑑賞の導入とします。</p> <p>・季節の表現方法を考える(約15分) 和洋を問わず、音楽には季節を表現した楽曲が多く存在し、本公演のプログラムでも、「ダンス・コンセルタント 四季」という楽曲を演奏します。WSでは日本の楽器で演奏する季節や自然を表現した曲を聞いて、どの部分がどんな状況を表現していることによって季節感を表しているかを説明するとともに、子どもたちが四季をどういった音で捉えているかを考えて発言してもらいます。</p> <p>・共演指導(約10分) 本公演時における共演について指導します。共演自体は校歌の歌唱ですので、歌唱自体の指導について詳細には行いませんが、実際に歌う場合にどの部分をよく聞いて、普段よく聞くピアノ伴奏とどう違うか考えるポイントについて解説します。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>本公演を効果的に鑑賞するための事前解説を、実演を交えながら行います。本公演で演奏される『ダンス・コンセルタント第1番「四季」』では、楽章ごとに四季を表現しています。WSでは日本の楽器で演奏される日本の四季がどういった方法で表現されているかを実際に聞いて考えてもらいます。季節を表す楽曲を聞き、どの部分が何の表現をしているかを解説するだけでなく、聞いた子どもたちに、その音表現と実際の現象について、言語化や発音してもらって比較を行ってもらいます。子どもたちに季節をどの様に表現するかを実際に考えてもらうことにより、日本的な表現の発想方法に関心を持ってもらい、本公演内における楽曲への興味誘導とします。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>子どもたちに発言を求めるなど、できるだけ双方向としたいため人数を区切って開催することが望ましいが、大人数でも開催できる形態としています。各学校の参加人数に応じて、細部は調整いたします。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

オーラ】

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

①本事業に対する取り組み姿勢

伝統芸能である邦楽は、現代生活で子供たちが触れているリズムやメロディーとはかなり違うものである。伝統的な邦楽とはそのようなものであり、そこにも魅力が内包されているのではあるが、多くの子供たちにとっては、そのままを鑑賞してもらうことは難易度が高く、将来に向けて興味を持ってもらう端緒とするにはやや難しいと考える。一方で邦楽という音楽は、その日本的な自由な発想と表現力の高さが芸術音楽として世界的にも認められ、現代においては幅広い活躍の場を得ている。そのような状況の中で、邦楽器による親しみやすく芸術性の高い音楽を子供たちに提供することにより、子供たちに邦楽、さらに言えば日本文化の魅力を楽しんでもらおうと意図して作られたのが本プログラムである。







本公演中の『ダンス・コンセルタント第1番「四季」』では全編を通して季節を情景描写している。古典楽器でも様々な音楽的表現が可能であり、その音楽的表現で情緒的な情景を表現すると子どもたちが発見することで、子どもたちの芸術や身体的な表現方法に多様な影響を与えることができると考えている。ワークショップや本公演を通じ、日本人が古くからどのような表現方法を持ち合わせていたかを学ぶことで、子どもたちに内在する表現力や想像力へ働きかけ、さらに新たな表現方法を自らに発見することを期待したい。

小中学校の子供たちは、周りの環境やちょっとしたきっかけが将来に影響するのではないかと考えている。本事業の様な学校での公演で邦楽に出会わなければ、生涯、正面から邦楽に接することのない子供たちも数多いと思われる。そのような子供たちが、邦楽というものを知る機会を得て、そして古来の発想方法を感じることで、自分の中にある日本的な表現をしてみたいとか、もっと他の伝統的な表現を聴いてみたいと思ってもらえるような活動にしたいと努力している。このように多くの子供たちに邦楽を親しんでもらいたく、また本来の邦楽が内包する、古来の日本的な自由な発想力に気づいてもらうべく、本事業へ申請するものである。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

学校において、このような「イベント」を行うことは、通常的时间割を変更して行うので、実施時間の制約もあり、事前準備の時間も取れないことが多い。体験型は子供たちの習熟度が学校によってかなり違うことが多く、また参加人数も学校によりかなりの差があるので、学校側からの要望があれば内容を一部調整するなどして対応する必要がある。これらは過去の経験からも導き出し、学校ごとに想定されるパターンをいくつか用意して、細かく対応する。

担当の先生には学校の様子をよく伺い、人数や学年などの具合によって、こちらからも提案を行うようにして、なるべく学校の実態に添えるように努力する。実際の連絡においても、こちら側の対応窓口を一本化し、電話での打ち合わせとFAX・メール・郵送による書面での通知を適切に使い分け、学校側の負担を少なくして余裕を持って臨める様な状況を作り、連絡の行き違いや漏れが無いよう、基本の対応をシステム化してある。

リンク先	No.2	【公演団体名	オーラ]	】
演目内容	<p>・日本の管・絃・打楽器の面白さを聞いてみよう 日本古来の様々な伝統楽器を紹介します。「箏、十七絃箏（低音箏）、琵琶、三味線、篠笛、尺八、小鼓、大太鼓などを中心に、実際の演奏を交えて紹介します。古典芸能で使用される自然の情景描写や動物の生態表現など、特徴的な奏法や、聞き覚えのあるような旋律を、奏者が直接解説・演奏します。一度にいろいろな種類の日本伝統楽器を知ることができ、比較しながら実際に目の前で鑑賞することができます。</p> <p>・いろいろな楽器で合奏 楽器紹介では個々に演奏していましたが、これらの楽器による合奏曲を聞いてみます。合奏の中で、どの様に特徴的な音を出しているか、鑑賞しながら確かめてみましょう。</p> <p>『ダンス・コンセルタント第1番「四季」』 三木稔作曲 この曲は、日本の四季を邦楽器群の合奏によってあらわします。かつて文部省の教材選定会議においてこの作品を聞かせることにより、(1) 音楽的反応、(2) 身体的（舞踊的）反応、(3) 演劇的反応、(4) 文学的反応、(5) 美術的反応、(6) 書道的反応といった多角的見地の教育ができるとの推薦がなされたことがあります。音楽的な芸術性を持ち合わせている曲ですが、子どもたちにも聞きやすい曲です。対象学年によっては演奏を楽章毎に区切りながら、聞き所などを解説することも可能です。</p> <p>・日本の管・絃・打楽器と一緒に歌ってみよう！（子どもたちとの共演プログラム） 校歌を邦楽器アンサンブル用に編曲しますので、子どもたちの歌と邦楽器群とで合奏します。普段聞き慣れた音楽を、邦楽器で演奏するとどうなるか、音の違いを体感します。</p> <p>・いろいろな楽器どれが好き？ 子どもたちとのトークセッション。どの楽器がいちばん気に入ったかを話してもらいます。どこが気に入ったのか、不思議に思ったことはないか、感じたこと発表してもらいます。また、こちらからも子どもたちへ質問して双方向にコミュニケーションを取ることで、より一層の興味を持ってもらい、理解の手助けとします。</p>			
	<p style="text-align: center;">本演目で登場する主な楽器</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center; margin: 5px;"> <p>箏</p>  </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;"> <p>三味線</p>  </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;"> <p>尺八</p>  </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;"> <p>笛</p>  </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;"> <p>小鼓</p>  </div> <div style="text-align: center; margin: 5px;"> <p>琵琶</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">他にも、様々な日本の伝統楽器が登場します。</p>			